



小島局長の意見を述べる

持続的な森林経営を続けていくには森林資源の確保が必須となってくるが、民有林では境界問題などがあり買いつらくなってきた。国有林の立木公売の方もお願いしたい。

○ 今回のウッドショックにおいて、すべての輸入材の代替を出来たとは言いがたい。でも結果として住宅着工戸数等に影響を及ぼすこと無く堅調な着工戸数なので、逆にい

えばここ10年の林野庁の政策の効果がというものはそれなりに発揮できたのではないかと思われる。

また、国際情勢を見るとアメリカの水害や竜巻等の影響が当然木材にもここ1、2ヶ月では日本の木材市況にもでてくるものと思される。

今の価格はピーク時からすると下がってはいるが以前に比べればそれなりの価格を維持している。今までどおりの生産をお願いしたい。

○ 国産材については10月頃までは商社や大手問屋で、あるだけもつて来れば買うという状況であったが、それ以降は在庫を抱えており入荷をストップしてダブっている。今後、合板や住宅機器が元に戻れば住宅着工数も回復するものと思われる。そうなるものと思われ。下がってもウッドショック前の価格でなくとももうワンランク上の状態に原木価格も収まるのではないかと思える。いかにスギ・ヒノキに代替需要させていくかが重要。

供給調整については、また極端に出さなくなったりすると価格を乱高下させてしまう恐れもある。安定的な供給をお願いしたい。

○ 住宅メーカーからは価格の不安定さや船が入ってこないなどの点で輸入材の動向に大変苦労したので国産材を一量使っていくというメーカーも増えてきたのではないかと思われる。川上・川中・川下で一体的な取り組みが必要ではないかと感じており、いわゆるサプライチェーンを構築して大型需要に対して供給していくことで価格の維持、安定供給により近づいていくのではないかと思っている。

供給については原木の要望が非常にまだ多い状況なので、引き続き国有林からの供給を安定的にお願いしたい。

○ 素材生産では機械化が進み単木材積も大きくなっていることから、生産効率も上がっている。そのような状況でえり好みや激しくなり、山地崩壊が起これば山や採算の取れない山には最初から手を出さなくなってきた。素材生産のノウハウを持っていないというだけでなく、再造林

いということに意識する必要がある、それに伴って再造林が可能となる。あるべき価格」という物を業界で考えていくべきだと思われる。

○ 市場の状況では6、7月の高騰を受けて10月頃までは直送より市場へ材をもってくるなど入荷の方もピークであったが12月になってやはり価格が落ち始め、入荷のほうも落ち着いてきた状況。それでも昨年の11、12月を比較すると40%ほど増加している。

今年のウッドショックのよいうな高騰ではなく基本的には国内の工場ができて国内の需要による価格の安定というものが大切だと思われ、その結果、再造林につながり森林組合、民間事業者が協力して持続可能な林業経営を可能としていければと思っている。

国有林の供給調整としては価格の動向を見極めながら、バランスのとれた調整をお願いしたいと思う。

※ 本検討委員会の詳細は、九州森林管理HPの九州ドの木材の供給情報の九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果等について一からご覧になれます。(担当 地域木材情報分析官)

次代を担う高校生 林業体験学習を実施



高校生に説明中

【宮崎南部森林管理署】
宮崎県林業労働機械化セン
ターからの依頼で令和3年12
月27日に、宮崎県立日南振徳
高校地域農業科2年生の28名
を対象に三ツ岩オビスギ遺伝
資源希少個体群保護林におい
て林業体験学習を行いました。
当センターでは、例年、宮
崎県からの委託を受けて次代
の担い手である若者に森林・
林業・木材産業への理解を深



保護林内を散策中の高校生の皆さん

め、林業への参入を促進するた
め、林業関係学科の高校生を
対象に林業体験学習事業を
実施しているもので、その一環
として依頼されたものです。
当日は、飫肥林業の歴史や
飫肥スギの特徴、昭和40年代
にピークを迎えた杉・松の産
の状況などの説明を聞いた後
林内を散策しながら、森林の
持つ保水機能、山地災害防止
機能、三ツ岩オビスギ遺伝資
源希少個体群保護林の現状
況等を学習しました。生徒た
ちは、このほか、木材市場や
森林組合で高性能林業機械の
実演などを体験し、森林・林
業に触れる貴重な一日を過ご
しました。

【北薩森林管理署】
地北薩森林管理署管内の中心
地のさつま町に所在する宮之
城森林事務所の新築工事が
令和3年5月から12月までの
工期で実施され、令和4年1

宮之城森林事務所の 新事務所開所式



保護林内で詳しく説明

今回の林業体験学習を機に、
林業の先進地である宮崎県の
将来を担う人材が多く育って
もらえることを期待していま
す。

月月上旬に完成し九州地方整備
局鹿児島営繕事務所より引渡
しを受け、1月26日に開所式
を挙行しました。
開所式にあたり北薩森林管
理署古市真二郎署長より「旧
事務所は昭和38年に建てられ、
老朽化や平成18年の豪雨によ
る浸水被害の影響等で建物の
損傷が著しいことから事務所
新築となりました。勤務する
職員においてもは、地域のシン
ボルでもある紫尾山の保全な
ど地域の森づくりにも取り組
んでいただき、地域からも愛
される森林事務所となるよう
頑張ってきました。」と挨拶が
ありました。



新しい森林事務所

曾於市と「シカ被害対策協定」を締結

【大隅森林管理署】

近年、大隅半島においてもシカの生息数増加や生息域の拡大が見られ曾於市内の森林においては食害等の被害により林業経営、森林の公益的機能の発揮にも影響が開始してきていることから、令和4年1月26日、曾於市役所において、曾於市、曾於市有害鳥獣捕獲隊、当署の三者で、協力体制を構築し、市内の国有林及びその周辺の民有地内のシカ被害対策を推進のため「シカ被害対策協定」を締結しました。

調印後、五位塚市長から「曾於市の中でも財部町大川原地域は、シカによる農林業被害が懸念されるので被害防止に向け、三者が協力し緊密に連携していくことで、国有林と周辺農地等の保全に大きく寄与するもの」と期待している。と挨拶がありました。

曾於市有害鳥獣捕獲隊の佐澤会長からは、大隅森林管理署から借りられる「くくり罠」をフルに活用して成果が上がるよう

取り組みます。期待して下さい。と頼もしい挨拶がありました。

山本文雄署長からは、宮崎県界及び霧島方面から当地域へ生息域が拡大していることを踏まえ、この地域でのシカ被害対策の推進は重要であり、三者の協定を通じて地域の農林業振興と地域住民の安心・安全な生活に協力していきたい。と挨拶し調印式を終了しました。

今回の協定締結は、鹿児島県大隅半島の国有林を管理する当署としては最初のシカ被害対策協定であり、効果的な捕獲となるよう連携し、地域へ貢献できているよう取り組んでいくこととしています。



調印を終えた三者、左から山本署長・五位塚市長・佐澤会長



モニターへの動機と子供時分の思い出

永岡 彩奈さん

わたし・永岡は、もともと北海道

は札幌の生まれで子どもの頃に、福岡県に移転してまいりました。とはいっても、小学生・中学生のころから、夏休みなどの学校の長期休暇の際には、札幌の祖父母のところ遊びに参りました。その場所は、白樺が生い茂る美しい公園がそばにあり、子供のころから、その公園で自然や木々に触れる機会が沢山ありました。思えばこの頃から、自然や木々について関心を深くしたと思います。ただし、残念なことに当該の自然公園は、太陽光発電のソーラーパネルが設置されてしまいました。

中学・高校時代は、福岡県飯塚市の額田町に所在しました。自然が多

く、自宅の裏手には木々に囲まれた自然地がたくさんありました。特に、夏には、蚊に刺されはしましたが、自然の木々の中をめぐるのが好きで癒しの時でした。

現在は、福岡市に所在しておりますが、故郷の飯塚市には、木々茂る丘陵地や小山にメガソーラーの太陽光パネルが多く設置されており、額田町の近隣にも、青々とした木々でなくてソーラーパネルの景色が増えて参りました。

元々、木々は、雨水を蓄積するなどの役割があると学校時分になりました。そうした役割を、いくら太陽光発電とはいえ、奪う結果になるのは、果たして大丈夫なのか?と思いい、この度、モニターとして活動できればと思いました。

過日の静岡県熱海での土石流などの災害が福岡県をはじめとする森林豊かであった土地で発生しないよううにして参りたいものです。私は24歳ですが、知らない事もたくさんありますのでモニター活動を通して知識も習得して更なる自然林等の森林保護活動などを展開したいです。

